

令和5年9月26日

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属高等学校

校長 平岡 伸一郎

2022年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2022年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。なお、アンケートは、3学期に実施しており、高校3年生は卒業式を迎える直前で登校していないので、1年生・2年生を対象にしています。

1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。

以下、「授業アンケート」への回答結果についての感想です。

Q3「授業は分かりやすいですか」の質問に約90%の生徒が肯定的な回答しています。

生徒が授業に集中していない状態で、教員がいくら授業の内容を理解しやすいようにかみ砕いて説明したとしても、生徒の頭には授業の内容は入りません。生徒に授業の内容を分かりやすいと実感してもらうには、生徒がきちんと授業を聞く態勢をつくった上で、生徒たちが興味・関心を持てる授業を展開することが必要になります。

それを踏まえて、そのことに関連する2つの質問、**Q9**「授業のルールを守るように先生は注意をしていますか」、**Q7**「授業を受けて、この教科・科目について興味が深まったと思いますか」への回答を見ると、前者に対し94%の生徒が、後者についても約80%の生徒が肯定的な回答をしており、**Q3**の結果も納得ができます。

生徒の教科・科目への興味を引き出すためには工夫が必要で、それには視覚に訴える教材が有効となってきます。授業で資料を使用する際にも、生徒に手元の資料集を開かせて見せるより、その内容をホワイトボードに投影して説明する方がより効果的です。現在は教育現場でもICT機器が普及しているので、以前に比べて教師が授業の工夫を凝らしやすくなっています。**Q4**の「授業は工夫されていますか」の質問に対する回答が、**Q3**の回答と対をなすように肯定的な回答が高い結果となっているのは、教員の授業に対する工夫・準備が生徒の授業への興味・関心を引き、授業の分かりやすさにつながっているといえそうです。

次に**Q6**の「授業は参加しやすいですか」の質問に94%の生徒が肯定的な回答をしており、**Q5**の「授業は生徒の疑問や質問にきちんと答えたものになっていますか」の質問も同じような結果となっています。

この結果からは教員が生徒に誠実に向き合っている姿勢に、生徒も教員に信頼を寄せ、授業に前向きに参加しようとしていることがうかがえます。

Q10の「先生は、授業時間を守っていますか」の質問に対して否定的な回答は4%で、教員が生徒に対して真剣な態度で授業に臨むことを要求しつつ、自身も自分を律する姿勢を生徒に示していることがうかがえます。

2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

授業を受ける態度についてのQ1からQ6のどの質問に対しても、肯定的な回答の数字が80%を超えています。なかでもQ4「授業中にノートをとる」では、肯定的な回答が100%に近い数字となっています。授業ノートは教科担当者からしばしば提出を求められ、評価点に加えられることもあって、他の取り組みよりも高くなっています。ノートをしっかり取るように取り組むことで授業への集中力は高まるので、今後もこの姿勢を継続してもらいたいものです。

Q8「授業に積極的に参加している」に対して、どの学年・コースでも肯定的な回答が80%を越えています。先ほどの授業アンケートであげた「授業は参加しやすいものですか」の質問に対する肯定的な回答が高かったことに対応したものとなっています。

以前は「授業は参加しやすい」と答える生徒の多さに比べて、「授業に積極的に参加している」と答える生徒は少なかったのですが、昨年度からはそのギャップが縮まり、今年もその状態が続いています。今後も生徒が参加しやすい活気ある授業作りに取り組んでいきます。

一方で、Q7「先生からほめられることがある」の質問に対する回答は、他の質問に比べて否定的な回答が高くなっています。今の生徒たちは本校生徒だけでなく、国全体で見ても自分に自信が持てなく、自己肯定感が低い生徒が多いです。そうした生徒たちにきちんと自信を持ってもらうためにも教師から生徒へ積極的に声かけをしていかなければと思います。

Q9「制服をきちんと着用し、姿勢を正して授業を受けている」に対して、学年・コースの違いがなく肯定的な数字が高く、授業アンケートの「授業のルールを守るように先生は注意していますか」に対応した数字となっています。

学習についての自己評価では、Q10「宿題や課題があればきちんと取り組んでいる」の質問に対し、肯定的な回答が90%を超えており、自分に課せられた課題はきちんとやるものであるという意識は浸透しているようです。一方、Q12「家庭学習にすすんで取り組んでいる」の回答は学校が期待している数字を満たしていませんでした。課題を出されればするが、そうでなければ積極的にはしないということが浮き彫りになっています。興味がわく授業、理解できる授業があれば、「もっと知りたい」「理解できるからもっとこの教科の成績を上げたい」という気持ちになり、家庭学習に取り組む意欲がわくと思います。生徒たちの知的好奇心をくすぐる授業を展開していくことが必要と思われる。

3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

Q14は本校の特長でもある挨拶についての質問に対して、肯定的な回答が89%となっています。本校の生徒が挨拶をきちんとする理由の一つとして、運動クラブの生徒が礼儀やマナーについての意識が高く、それが他の生徒にも波及していることがあげられます。特進コースに比べ、クラブ加入率が高いUPGコースの生徒に肯定的な回答が高い点に、そのことがうかがえます。

Q15「この学校の生徒は、学校生活に積極的に取り組んでいる」に対しても、肯定的な回答が 91%となっています。1年UPGコースでクラブに加入している生徒の 87%が、Q27「クラブ活動に積極的に取り組んでいる」に対して、「よくあてはまる」と回答し、65%が Q28「クラブ活動と学業を両立させるよう取り組んでいる」に対して、「よくあてはまる」と回答しています。Q15の数字はクラブ活動に積極的に打ち込みながら、学業との両立を図っている生徒たちの学校生活の充実ぶりが反映された数字と思われます。

学校の取り組みに対して、生徒たちは高く評価しています。

Q20「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」、Q22「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」に対しては 90%の生徒が肯定的な回答をし、Q24「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」に対しては 96%の生徒が肯定的な回答をしています。

いじめについては、人権教育推進部が定期的実施する「いじめ実態調査」、春・秋に「人権週間」を設け、生徒への人権意識向上の啓発を行っていることへの評価。進路情報については、進路指導部が窓口となり行っている系列校の大阪産業大学との高大連携の取り組みへの評価。生徒指導については、生徒指導部が全教員と連携して毎日行っている登校指導や定期的に取り組んでいる登下校指導、各学年で取り組んでいる昼休み・授業開始前の巡回などを高く評価してくれたものと思います。

それに比べると、自分たちの取り組みに対する自己評価は少し低いようです。

Q17からQ19までの「校則やルールを守っている」の質問に対しては、肯定的な数字が約 80%となっています。これを見ると生徒たちの中にルールは守らなければいけないという意識はあるようです。しかし、マナーやモラルを守ろうという意識まで高められているかということ、彼らの日頃の行動を見ていると疑問符がつきます。周りに流されず、自分の価値観・判断力をしっかり磨いていってほしいと思います。

以上、各種アンケートの分析結果を簡単に報告させていただきました。分析結果を総括すると、教師の授業内容、指導態度には多くの生徒が満足しているようです。授業を受ける生徒側の態度についても基本的なルールは守ろうとする姿勢が表れており、そうした姿勢は家庭学習の取り組みにも表れ、宿題や課題はやるものだという意識を多くの生徒が持っています。また、学校生活についても積極的に前向きに取り組んでくれているようです。実際、本校生徒は素直で明るく、学校生活を楽しそうに送っているように見えます。その様子に教員として安心する一方で、まだまだ本来持っている能力を発揮していないように感じます。本校生徒には現状に甘んじることなく、自己の本来持っている力を高めていこうとする食欲さを持ってもらえればと考えています。